

シンポジウム「第1回 宗教と環境——地球社会の共生を求めて」が開催

佐藤孝則

平成22年11月6日午後、東洋大学白山校舎で宗教・研究者エコイニシアティブと東洋大学共生思想研究センターの共催によるシンポジウム「第1回 宗教と環境——地球社会の共生を求めて」(後援:環境経営学会、東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ)が開催された。宗教関係者や研究者など約170名が参加した。

宗教・研究者エコイニシアティブ代表で東洋大学教授の西山茂氏による開会挨拶の後、2題の基調講演がおこなわれた。山本良一東京大学名誉教授による「低炭素革命の成否と人類の未来—宗教に期待するもの」と、藺田稔京都大学名誉教授(秩父神社宮司)による「日本人の伝統的環境観—神・人・自然のつながり」だった。

西山氏は宗教者と科学者が協働して今日の世界問題に対処する必要があると強調した。山本氏は今日の深刻な地球規模の温暖化問題を多面的に紹介し、個人レベルでなく社会レベルでの構造改革を図るべきだと説き、「地球生命圏」存続のためにも宗教者の役割は大きいと強調した。また、藺田氏は日本人がもつ宗教的な自然観に焦点をあて、風土性との関連で神と人と自然の関係を平易に説いた。

基調講演後、竹村牧男東洋大学長がコーディネーターを務め、「環境危機に対して宗教者は今、何をなすべきか?」のテーマでパネル討論がおこなわれた。パネリストとして、原井慈鳳氏(法華宗菩薩行研究所長)は「エコを進める菩薩行とは何か」、深田伊佐夫氏(立正佼成会中央研究所研究員)は「自然への感謝の心をどう養うのか」、山岡陸治氏(生長の家出版・広報部長)は「ISO14001 認証取得から“炭素ゼロ”へ」、桑折範彦氏(徳島大学名誉教授、日本聖公会員)は「環境・温暖化とエネルギー」、内藤歆風氏(日蓮宗妙宗山朝善寺)は「持続可能なシンプルライフのすすめ」について発言し、意見を交わした。

このシンポジウムには真言宗、浄土宗、日蓮宗、法華宗、曹洞宗、生長の家、立正佼成会、金光教など各宗教関係者のほか、東洋大学、日本大学、中央大学、国際基督教大学、東京富士大学、鈴鹿短期大学などの大学関係者、さらに大林組、清水建設、グッドバンカー、ベターリビング、三菱総研、環境経営格付会社(SMRI)、日本経済人懇話会、精神文化映像社など企業関係者も多数出席した。天理教からは岩田長太郎総務部長と柏木安功総務課員、そして私の3名が出席した。

シンポジウムに関する記事は、一般紙では『産経新聞』に、宗教業界紙では『仏教タイムス』に、そのほか『新宗教新聞』、『佼成新聞』、『聖使命』などに紹介された。

このシンポジウムに出席して、環境問題解決に向けた宗教者と科学者との協働(パートナーシップ)の必要性を再認識できたが、パネル発表をおこなった各教団・宗派の自然観・環境観との関連性が希薄で、相互の議論に深みを感じられなかった。むしろ、各教団・宗派の発表の場にとどまった感は否めない。パネリストが5名と多かったことも一因だったかもしれない。

(8頁からの続き)

団である。7世紀までその地でのキリスト教を代表していた。しかし、イスラム教の進展とともに、イスラム教に改宗するのが相次いだ。そのために、残ったキリスト教信者は隠遁生活を余儀なくされた。16世紀にヨーロッパ人と接触してコプトとして認められ、ヨーロッパの中にもエジプト人を中心として広がっている。ローマにもコプトの教会がある。

ローマ法王は、これらの一連の出来事を大変憂慮している。元旦と2日のアンジェルス(法王のお告げの祈り)でもこれらの出来事に言及している。平和というのは具体的な目標なのだ。社会的にも政治的にも人間が実現しなければならないことだという。キリスト教徒は、平和への道を歩もうとする政府や民衆を助けていると述べている。

ローマ法王をはじめとして、イタリア政府、EUの首脳たちは、キリスト教徒が迫害を受けている国々では「信教の自由」が欠如していることを訴えている。

世界中で、憲法上「信教の自由」を認めているのが194カ国である。しかし実際には、世界の人口の70パーセントが「信教の自由」を否定されているのだ。宗教対立による犠牲者を100人とする、その75人がキリスト教徒であるという。今でもキリスト教を信じているために、世界の5,000万人のキリスト教徒が危機にさらされているという。

(4頁からの続き)

されたものも含まれている。また、天理教における上海伝道庁のようなこの地域における統括組織の施設はこの数には含まれていない。施設数の後に「駐在教師〇〇人」としたのは、「附(駐在教師)」(仏教各宗派では「附(駐在布教師)」となっている)の後に記されている人名の数。例えば、天理教の場合、駐在教師には伝道庁長をはじめとする伝道庁勤務者などの名前が記されている。なかには施設名がなく、駐在教師だけが記されている教宗派もある。尚、一部を除き人名の後に日本の地名が括弧付で書かれているが、これは戸籍地であろうか。

(3) 本稿ではこの部分の漢字表記は現代表記。明らかに誤植と思われる部分については訂正した。たとえば「2. 天理教中華教会」の「②原澤千加栄」が原文で「②原澤斗加栄」となっていたり、「6. 天理教肥和教会」の「③金子ナホ」が「③里子ナホ」、「5. 天理教揚子江教会」の「④77」が「③77」となっていたりしている。ほかにも原文の表記には誤植があるかもしれない。尚、信徒数の後の(日)は日本人、(中)は中国人を意味し、原文通りの表記である。

(次号に続く)

天理スポーツ関連シンポジウム
「未来を創る! ~天理 障害者スポーツ~
開催のお知らせ

天理スポーツ関連シンポジウムを**3月26日**に開催する予定です。なお、日時や場所、プログラム等に関しては次号でお知らせ致します。